

会 議 録

会議名称	平成27年度第2回渋川市子ども・子育て会議 会議録
開催日時	平成27年8月27日（木） 午後1時30分～午後3時20分
開催場所	渋川市役所 本庁舎 大会議室
出席者	出席 17名
欠席者	欠席 3名
傍聴者	0名
事務局	4名
配付資料	別添のとおり
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 委嘱状交付 4 委員自己紹介 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長及び副会長の選出について (2) 渋川市子ども・子育て会議について (3) 渋川市子ども・子育て支援事業計画の概要について (4) その他について 6 閉会

発 言 者	発 言 内 容
<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>立見部長</p> <p>一同</p> <p>立見部長</p> <p>会長</p> <p>副会長</p> <p>会長</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p>	<p>議事 1 会長及び副会長の選出について</p> <p>(会長選出までの間については、立見保健福祉部長が臨時議長を務める)</p> <p>お手元の条例の第5条におきまして、委員の互選により選出するとあります。</p> <p>事務局の案がありましたらお願いします。</p> <p>本会議におきまして、公平な立場を確保するため、また、改選前に引き続きまして、会長に群馬大学の斎藤委員、共愛学園前橋国際大学の前田委員の選出を提案します。</p> <p>ただいま、事務局から提案がありましたが、いかがでしょうか。</p> <p>異議なし</p> <p>それでは、本会における会長は斎藤委員、副会長は前田委員といたします。今後の議事については、会長に譲りたいと思います。</p> <p>(会長挨拶)</p> <p>(副会長挨拶)</p> <p>それでは、議事 2 渋川市子ども・子育て会議について、議事 3 渋川市子ども・子育て支援事業計画の概要については、関連がありますので、一括議題とします。事務局の説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p> <p>説明が終わりました。何かご意見等がありますでしょうか。</p> <p>計画の概要で養育支援訪問事業のニーズ量が0になっていますが、需要がないのでしょうか。最近では児童虐待などのニュースをよく耳にします。</p>

事務局	ニーズ調査の結果、国の項目に当てはまる部分についてのニーズ量はありませんでした。それ以外で、現在行っている事業として、乳幼児家庭訪問事業や要保護児童対策協議会など、関係機関と協議しながら援助を必要としている方を支援しています。
会長	そうしますと、養育支援訪問事業というのは、国の項目以外の他の事業でカバーできているという理解でよろしいでしょうか。
事務局	そうです。
委員	養育支援が必要かどうかは、市の方で判断するのでしょうか。
事務局	まず、お子さんが生まれたときに、全家庭を保健師が訪問し、援助が必要と判断した場合は、家庭児童相談員などとともに、支援が必要かどうかを見極めていきます。
委員	主任児童委員が見守っている、お子さんが小学生の家庭で、支援が必要な家庭があるのですが、踏み込めずに何もできないケースがあり、一向に改善されないケースがあります。
事務局	現在、幼稚園や保育園、小学校、民生児童委員などと連携し、必要な支援を要保護児童対策協議会において協議し支援活動を行っています。やはり、時間をかけて話し合っていくことが必要であると思います。
委員	渋川市において、現在認定こども園はあるのでしょうか。
事務局	現在、渋川市内に認定こども園はありませんが、広域入所として、渋川市外で働かれている方などが渋川市外の認定こども園を利用しているケースがあります。
委員	今後、認定こども園を整備する予定はあるのでしょうか。
事務局	認定こども園は都心部の待機児童解消の一役を担っている部分もあります。渋川市においては、現在待機児童はいませんが、今後の二

会長	<p>ーズにより検討したいと思います。</p> <p>都心部においては、待機児童解消のために、保育の量を増やすあまりに質がおろそかになってしまっている面もありますので、慎重に進める必要があるかと思います。また、計画の概要版で、3号認定のみ、見込み量が増えていく背景について補足説明をお願いします。</p>
事務局	<p>渋川市全体では、子どもの数が減っていく見込みですが、女性の働き方の変化などの理由により、早い段階から子どもを預ける方が増えている傾向があり、3歳未満児の保育ニーズが増えています。</p>
委員	<p>言い方が悪いかもしれませんが、女性の方が働かざるを得ない理由はどの辺りにあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>ニーズ調査の結果から分析すると、キャリアを目指したい女性が増えていたり、男女ともに育児休暇が取りづらい、さらに共働きをしないと家計が厳しいなど、さまざまな理由があると思います。</p>
委員	<p>子どもは家庭、そして社会が育てるものだと思います。新制度では、どうしても保育の量などを増やすことに目が行きがちですが、それ以上に、育児休暇制度など、現在ある制度を普及させていくことも大事だと思います。</p>
委員	<p>出産時から専業主婦をしています。周囲から働かないの？と聞かれますが、主人の仕事も忙しい中で、なかなか条件に合う職場がありません。主人の親も遠方で、自分自身の両親も仕事をしている中で、子どもを誰かに頼むのは厳しく、犠牲という言葉もおかしいですが、結局、私が犠牲となって面倒を見るしかありません。働いている知人のことなどを考えてみても、親など誰か1人がサポート係として、子どもの面倒を見ている状況です。誰かが犠牲となってサポートをしないと子育てが回っていかない状況に対して少し疑問を感じます。</p>

<p>会長</p>	<p>ひとつ思い出したのは10年前位に、連合の組合員に行ったアンケート調査で、「健康上の理由で保育園を休んだ日が年に何日あったか」という項目で、平均すると年間20日以上休んだ日があったそうです。そう考えると、子どもを保育園に預けている共働き家庭でも、両親が面倒を見なければならない状況が生まれます。その点から考えて、子どもが病気の場合に、保護者が仕事を気軽に休める環境の充実が必要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>みつばち保育園は4名定員ですが、今後増えますか？渋川市では病児保育について、どうようにお考えでしょうか？</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の施設を設置するまでに時間がかかった経緯や費用の問題などもありますので、今後、病児・病後児保育施設を新たに設置することは厳しいものがあるかと思いますが、ファミリー・サポート・センター事業でも病児・病後児の預かりを行っていますし、今後、保育園などでの預かりも検討していきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>公立保育所の関係で、現在、第四保育所を廃止にするような流れがあるようです。公立は地域に根付いているし、一時預かりの対応など、迅速に対応してくれています。民営化にする流れが、いまいち理解できません。</p>
<p>事務局</p>	<p>渋川市では、第四・第五保育所の老朽化が課題になっています。正直、今後の保育園のあり方については、現在のところ、決定事項は何もありません。老朽化への早期の対応に向けて、方向性を出していこうと現在検討している段階です。</p>
<p>委員</p>	<p>たくさんの意見が出ていますが、やはり実際のところ予算が大事になってくると思います。新制度になって、国の方向性もあまりよく出ていない中、国がだめなら市がどれだけの覚悟をもって子育て支援を</p>

事務局	<p>行っていくかが求められていくと思います。</p> <p>今年度から新制度が始まりましたが、財源となる消費税の取り扱いが一部延期されました。国からの配分が不透明なところも多いですが、一つは国に対して、市長会や12市の会議の中で、要望をつねずねあげています。新制度において、国が子育て対策に本腰を入れることに期待して、また、渋川市でも子ども子育て会議を活用して、どのような支援が必要なのかをあぶり出して、重要な部分については上にしっかりと説明し、予算をとれるようにしていきたいと思います。</p>
-----	---